

「新年あけましておめでとうございます。」昨年はこの挨拶を交わすことが出来ませんでした。今こうして生徒の皆さんの笑顔を見ることが出来、本当にうれしく思います。3学期も一人ひとりの目標達成に向け努力していきましょう。

さて、皆さんは、1月1日の朝、新年の目標・計画を立てましたか？

私事で恐縮ですが、私は巳年生まれで、今年は何年男です。いよいよ教員生活も最終コーナーを回りました。私は普段はあまり信仰深い方ではないのですが、今年に限っては、元旦の朝、近くの神社へ参拝し、中学時代の同級生8人でお祓いをしていただきました。

「健康で過ごせますように、そして、平穏な日常が訪れますように。」このような思いが込み上げてきました。これは目標とは言えないかもしれませんがね。

天候にも恵まれ穏やかに時間が過ぎ、緊張しながら迎えた午後4時10分、黙祷をしていると1年間の記憶がよみがえりました……

震災から1年が経過しました。この時期に「アニバーサリー反応」と呼ばれる様々な反応が起こり得ます。ある出来事から1か月、半年、1年、2年といった節目の時期に、一度おさまっていた心身の反応がぶり返すことがあります。TVや新聞の報道を目にしたり、生活環境が改善しないことへのストレスだったり理由は様々ですが、緊張や不安、眠れない、いらいらする、勉強に集中できない等の反応が出るかもしれません。そんなときは、これは誰にでも起こりうることで知っておいてください。そして、一人で悩まず、友人や家族、先生に伝えて下さい。皆で乗り越えていきましょう。

さて、お正月の私の楽しみの一つは箱根駅伝です。今回で101回目を迎え、青山学院大の連覇で幕を閉じました。20校が参加（オープン参加で関東学生連合）し、上位10校に次回大会のシード権を与えられます。11位～20位の10校は10月の40校以上が参加する予選会を勝ち抜かなければ本大会に出場できません。私は、優勝争いにも当然関心はありますが、それ以上にシード権争いに注目して毎年TVを観ています。今年も期待通り、東京国際大、東洋大、帝京大、順天堂大の4校が8～11位を争い、残り23.0kmのアンカー勝負まで全く予想のつかない展開となりました。4校のうち1校がシード落ちとなるため、最後の最後まで各校アンカーの意地と意地とのぶつかり合いが見られました。そしてゴールテープが見える直線まで競り合いは続き、東京国際大が10時間54分55秒でゴール。続いて東洋大が1秒差で9位、帝京大が2秒差で10位、惜しくもシード権を逃した順天堂大は10時間55分05秒、10位との差は7秒でした。2日間、往路・復路合わせて217.7kmを10人のランナーがタスキをつなぎ、11時間近く走って、僅か7秒に天国と地獄ほどの差があったのです。

東洋大は総合第9位で、継続中では最長となる20年連続シード権を獲得しました。

2009年第85回大会で出場67回目にして初優勝を遂げた東洋大は、その年の4月に現在も監督を務める酒井俊幸氏が就任しました。東洋大は第86回大会も連覇します。2011年第87回3連覇を狙った東洋大ですが、僅か21秒差で早稲田大に敗れました。その10日後、酒井監督は当時「山の神」と呼ばれた柏原竜二をキャプテンに指名し、「その1秒をけずりだせ」のスローガンを生み出します。箱根駅伝の敗戦を振り返ったとき、選手たちからは「全員が1秒、1秒を大切にしていれば……」といった言葉が聞かれました。

「21秒」は1人でも何とかできる差です。でも、「俺が何とかできた」ではなく、「1秒をみんなで背負う」という思いから、「その1秒をけずりだせ」が誕生しました。

思いを胸に挑んだ2012年第88回大会で王座奪還を果たし、「その1秒をけずりだせ」が東洋大らしさ、そしてチームカラーである「鉄紺の走り」につながっています。

東洋大陸上競技部は毎年七尾市で夏の強化合宿を行っており、私個人として大変親しみを持って応援している大学です。震災直後の2024年の第100回大会では4位入賞し復活の兆しを見せました。その後1月15日には選手、マネージャー、スタッフらが能登半島地震支援募金活動を行ってくれました。

「時間は平等に与えられるが、結果は平等ではない」

これは、元プロ野球監督の故野村克也氏の言葉で、平等かつ有限な資源である「時間」について語っている言葉です。世界中、老若男女を問わず、1日に与えられる時間は24時間であり、平等の時間です。1年365日（うるう年は366日）も揺るぎない事実です。

時間の使い方次第で、結果や成果に差が生じ、勝負の肝心なところが隠されています。時間をどう使うか、どのように課題に立ち向かうか、どのような努力が可能なのかを真剣に考える必要があります。皆さんも自分の将来をしっかりと考え、その将来に向けて効果的な時間の過ごし方を今一度考えてみてください。

トイレ修繕工事の方は今しばらくの我慢です。これからも色々と不便な思いをすることもあります。周囲への思いやりの心を忘れずに、3学期も「チーム穴高」で生徒の皆さんと教職員が一丸となって歩んで行きましょう。

以上、3学期始業式の式辞とします。

令和7年1月7日（火）

校長 島崎 康一